

平成19年2月13日

習志野市議会議長
宮 本 博 之 様

習志野市香澄6丁目自治会
習志野市香澄6 - -
会長

『ボートピア習志野』の営業中止に関わる陳情

香澄6丁目自治会は、平成18年6月度市議会より一貫して「ボートピア習志野」の設置には、会員各位の総意にもとづいて反対し、その真意を伝えるべく毎回の市議会に反対陳情を継続し提出してまいりました。

しかし、その意に反し開業の運びとなりましたが、当該施設の開業後には、香澄6丁目住民の予知せぬ出来事が発生し始めました。

3月度市議会に於かれましては、市議会議員各位の叡智と英断を以て当該施設の早期撤廃を実現していただきたく、香澄6丁目自治会役員一同の決議を以て陳情するものであります。

記

、習志野市は、歴代諸先輩たちの叡智で他市に先駆けて、「文教・住宅特区」をいち早く制定し、今日の豊かな文教住宅都市習志野を形成しました。

しかし、その基盤を担ったものは、言うまでもなく習志野市民の誇りとした「文教住宅都市憲章」の存在にあったと言えますが、習志野市議会は「ボートピア習志野」設置に加担し、某憲章を汚し、市民の意思に背いて当該施設の推進を強行可決されたのであります。

これ事態は諸種の観点から判断しましても行政当局の行き過ぎた行政行為の結果によるものと判断されますが、今回の市議会に於いて、習志野市の発展を阻害する当該施設の営業中止を英断をもって採決されることを陳情いたします。

、1月29日朝方、ボートピア習志野の舟券投票カードが香澄公園内に細かく切り刻まれて広範囲に散り撒かれていました。

この発見は、香澄6丁目住民が恐れていたことの一つが、現実のものとなったとする瞬間でもありましたが、これらの出来事はボートピア設置計画の発表当初から、巷で囁かれていたことの冰山の一角に過ぎないものと考えられます。

今回は“習志野の草原”の「あずまや」周辺立木の中および散策道路に負け損じた競艇ギャンブラーが憂さ晴らしで悪行したものと思われますが、撒き散らした競艇ギャンブラーは1月24日(水)～28日(日)の5日間の蒲郡競艇レース”最終日の競艇予想紙”に1～12の全レースに投票していたと思しき詳細予想メモまで残していました。

、「平成18年度第2回防犯研究会」が2月3日(土)、習志野市民会館ホールに於いて開催されましたが、日本市民安全学会理事・防犯設備士の伊藤好子講師は「犯罪発生の基本三要素」を図式で説明しておられました。

”加害者が赤い輪、被害者が青い輪、被害者のいる物理的空間がグリーンの輪、この3つの輪が重なるところが犯罪に遭遇する機会になります。”との説明でありました。

そこで、香澄6丁目自治会は、この公式を「香澄公園」の現状に照らし合わせて検証しましたところ、加害者のいるところは競艇ギャンブラーの訪れるところ、被害者は近隣住民と香澄公園に訪れる多くの市民、被害者のいる物理的空間は香澄公園界隈となります。このことは、香澄公園が香澄6丁目地域にありますことから「ボートピア習志野」の開業以降、香澄6丁目住民は極めて危険な住居環境に晒されていることとなります。

また、香澄公園は習志野市民の唯一の憩いの場所として、日々老若男女が鋭気を養うために利用している「市民憩いの広場」でもあります。

以上の趣旨を踏まえ、習志野市香澄6丁目自治会は「安心・安全な町を守る」観点から「ポートピア習志野」の早期営業中止を実現していただきたく見識ある市議会議員各位に陳情するものであります。